

広報 なぎじん

No. 104

1984年 7月

村 章

(毎月1日発行)



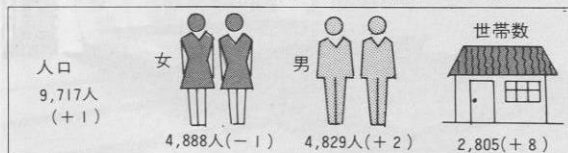
▲暮らしを支える今泊の水源地

山深く入ると、山鳩や小鳥の声を聞き消すように水流が激しくなる。そこが今泊富原にある字の水源地である。汚物や薬物の流入を防ぐためコンクリートで囲まれているが、それでも満々と清水をたたえた様子が伺える。

字では、昭和39年に簡易水道を整備し、ここから送水。今でも字管理である。年間14万6千トンの生活及び農業用水の需要を満たし、なお余水が溢れ出る。干ばつにも枯れたことがない、というのが字民の自慢の種。

水と鳥と木々のハーモニー。村の自然は健在だ。(写真＝水源地から溢れ出る余水)

今帰仁村の人口 昭和59年5月31日現在()内は前月比



今月の主な内容

- 二・三 福祉・教育・文化の殿堂
大型コミュニティセンター期待に迎え完成
多目的に利用できます
- 四 ホッケーの見方⑤ 最終回
得点の決め方について
功労者八氏に感謝状
第十回老人クラブ大会開催
- 六 あなたは今帰仁村に住んで
どのように感じていますか
国土利用計画策定のアンケートから⑦
- 七 村民コーナー私の一言
村まつりに展示会の再開を
字平敷八八 大城千栄
- 八・九 今帰仁の歴史②
第一監守時代(一四二二～六九年)
- 十 「若き後継者たち」⑳
「自動車の修理・販売」
仲宗根の嶺井高弘さん
- 十一 蚊の発生を防ぎ快適な夏を

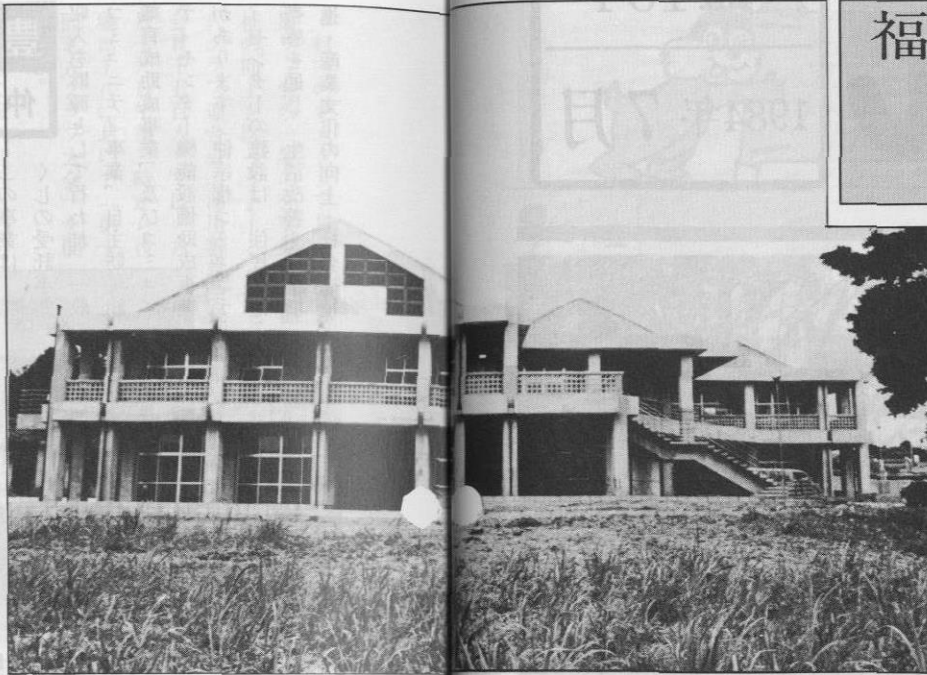
福祉・教育・文化の殿堂

期待に応え完成

大型コミュニティセンター

演劇・公演・交流・娯楽・結婚式など

多目的な利用ができます

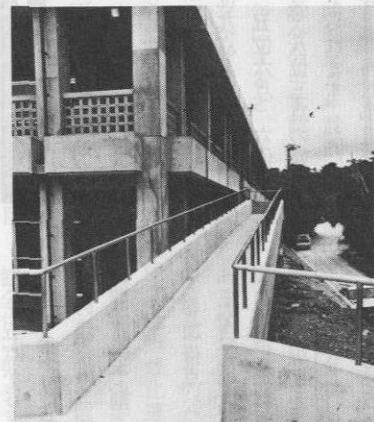


威容を誇る
コミュニティセンター全景



心配ごと、人権問題など
各種の相談室

車椅子も利用できる
2階へのスロープ

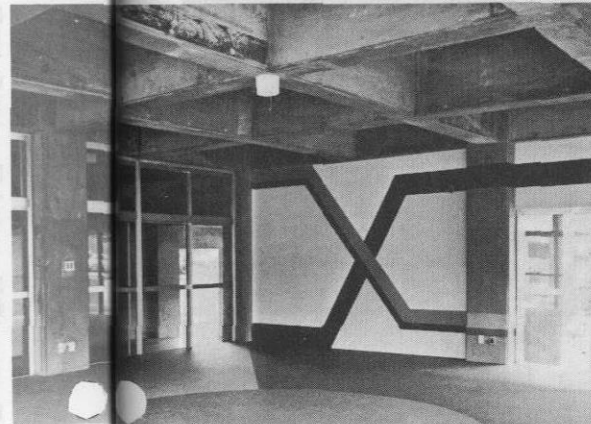
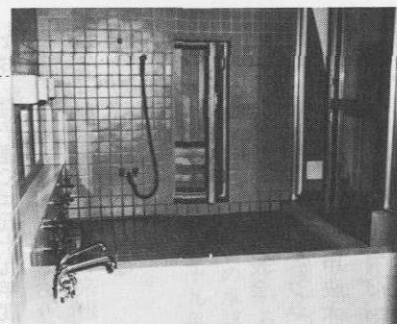


五百人が入れ、空調・音響
設備も整ったコミュニティ
ホール

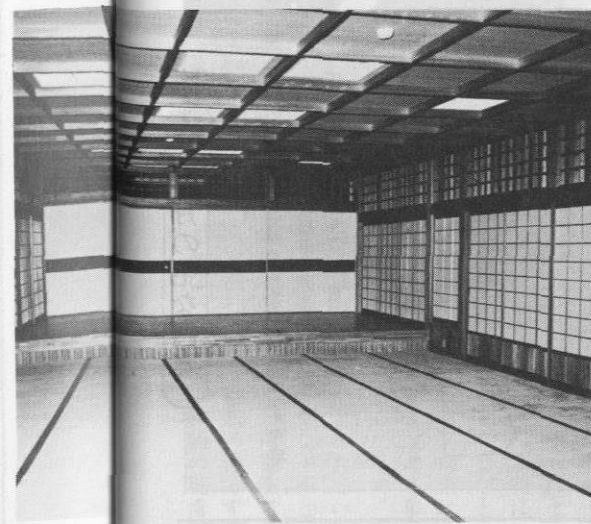


広々とした空間利用のロビー

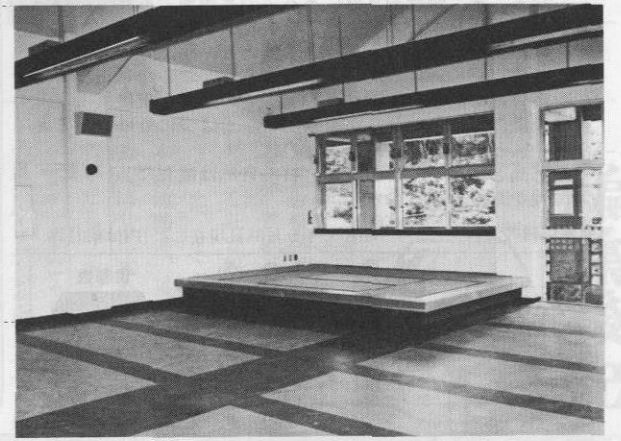
サウナ風呂付きの浴室



老人や障害者のための機能回復室



舞台を備えた三五畳の娯楽室



サークルや交流の場として利用される老人・婦人・青年の室

村民の期待を集めて昨年十月より建築が進められていた「今帰仁村大型コミュニティセンター」が、このほどついに完成しました。この施設は、社会福祉の増進と人間形成の核として、また高齢者の生きがい、若者の定着の場など、多目的に利用できる施設として、村が二億七千二百四十一万円の費用を投じて建設したものです。財源内訳は、国庫補助二千九百七十万円、起債二億二千八百万円、一般財源千四百七十一万円。設計委託は(有)二基建築設計室、建築工事は(有)大組・(有)孝夫組建設工事共同企業体、電気設備工事は池田電気工事社、給排水設備工事は山川電気工事社、空調設備工事は(株)沖繩ナショナル特機、舞台設備工事は(株)サンケイエンジニアリングの各社がそれぞれ請負いました。センターの規模は鉄筋コンクリート二階建て、総延床面積は一、三九四平方メートル。一階には作業室兼研修室、機能回復室、相談室、浴室、事務室、音楽室、喫茶コーナーが配置され、二階はコミュニティホール、老人・婦人・青年の室等となっています。村では建設にあたり様々な団体の意見を取り入れ、地域にマッチし、しかも村民が利用し易く、さらに永続的に親しまれる、などあらゆる角度から検討を重ねてまいりました。そして設計から施行に至るまで立派に完成したわけですが、施設は最大限に活用して初めて魂が与えられるものです。今後とも、利用計画・運営面については、各団体や村民の皆様の十分な検討と協力をお願いしたいと考えています。施設の平面図、概要、建設に至るまでの経過については、広報九十二・九十五・九十七号等で既に紹介してありますが、今回は写真で完成した施設を回ってみましょう。

ホッケー競技の見方

No.5 最終回

得点の決め方について

ホッケー競技の天皇杯種別として成年男子・成年女子・少年男子・少年女子・皇后杯種目として成年女子・少年女子があります。

(一) 競技得点算出方法
各種別の一位に十二点、二位九点、三位八点、四位七点、五位六点、六位五点、七位四点、八位三点、九位二点、十位一点、十一位五分、十二位四分、十三位三分、十四位二分、十五位一分、十六位五分、十七位四分、十八位三分、十九位二分、二十位一分、二十一位五分、二十二位四分、二十三位三分、二十四位二分、二十五位一分、二十六位五分、二十七位四分、二十八位三分、二十九位二分、三十位一分、三十一位五分、三十二位四分、三十三位三分、三十四位二分、三十五位一分、三十六位五分、三十七位四分、三十八位三分、三十九位二分、四十位一分、四十一位五分、四十二位四分、四十三位三分、四十四位二分、四十五位一分、四十六位五分、四十七位四分、四十八位三分、四十九位二分、五十位一分、五十一位五分、五十二位四分、五十三位三分、五十四位二分、五十五位一分、五十六位五分、五十七位四分、五十八位三分、五十九位二分、六十位一分、六十一位五分、六十二位四分、六十三位三分、六十四位二分、六十五位一分、六十六位五分、六十七位四分、六十八位三分、六十九位二分、七十位一分、七十一位五分、七十二位四分、七十三位三分、七十四位二分、七十五位一分、七十六位五分、七十七位四分、七十八位三分、七十九位二分、八十位一分、八十一位五分、八十二位四分、八十三位三分、八十四位二分、八十五位一分、八十六位五分、八十七位四分、八十八位三分、八十九位二分、九十位一分、九十一位五分、九十二位四分、九十三位三分、九十四位二分、九十五位一分、九十六位五分、九十七位四分、九十八位三分、九十九位二分、百位一分。

(二) 男女総合(天皇杯)、女子総合(皇后杯)成績決定方法
男女総合、女子総合成績は、それぞれ次のア、イ、ウの得点を合計したものとします。

ア、(一)の得点合

イ、(二)の得点合

ウ、(三)の得点合

この増進に役立てようというもので、完成は今年十二月二十日の予定。

これまで字唯一の集会所として使われている公民館は、戦後間もなく建てられたため狭い上に老朽化が進み、活動に著るし

豊かな人間形成の場に 仲宗根コミュニティ起工式を行う

字仲宗根(金城宏区長、人口千四百人)に、財団法人自治総合センターの助成事業によって「仲宗根コミュニティセンター」が建設されることになりました。この事業は、宝くじの受託事業収入を財源として行われ、一般コミュニティ事業、自主防災組織育成助成事業、及びコミュニティセンター機能設備助成事業があります。仲宗根コミュニティセンターの建設は、住民の連帯感を通じ、生活改善や健康増進・産業文化の向上・社会福祉



▲起工式で工事の安全を祈願

計の第一位の都道府県に十二点、二位九点、三位八点、四位七点、五位六点、六位五点、七位四点、八位三点の競技得点が与えられます。ただし同点の場合は、当該都道府県でその順位を共有し、次の順位は次点となります。得点は次順位の得点を加え、当該都道府県で等分します。

イ、種別優勝得点
各種別の第一位の都道府県に種別優勝得点

ウ、参加得点
大会(地区予選会も含む)に参加した都道府県に参加得点一点が与えられます。

※シリーズで紹介しましたホッケー競技の見方は、今月号で終わりです。

ホッケー競技や、六十二年国体について詳しく知りたい方は村国体準備委員会(村教育委員会内、電話五六二六四七・二六四五)へお問い合わせください。

筋コンクリート
平屋建三九六・三六平方メートル、大ホール、議事応接室、和室、調理講習室等を備えています。

設計は末松設計、建設工事は新城組、設備工事は渡慶次電気工事社の請負。

なお起工式は六月十三日午後三時半から行われ、関係者五十人が出席し工事の安全と完成を祈願。金城区長は「これまで各団体とも不自由な思いをしていたが、建設により生活の向上とともに市民の協力・意識が高まるものと思う」と、期待をふくらませていました。

村子ども会の 役員と事業計画 きままる

今帰仁村子ども連合会の、五十九年度役員と活動計画が次のとおり決まった。

○会長—上間真樹子(越地)
○副会長—島袋 光(今泊)
○—嘉手苺真也(渡喜仁)
○—玉城 恵美(湧川)
○書記—富平 静香(仲宗根)
○会計—玉城 有香(仲宗根)

なお、村子連では五十九年度の独自の活動として次のとおり計画している。

七月—リーダー宿泊研修会
八月—村子連JL研修会
九月—村子子ども連絡会
十二月—ハイキング

三月—第三回子ども発表会

また、県全体としては、ジュニア中級研修会、全子連中央大会、子ども祭、全子連リーダー研修会、九州地区JL研修会などが計画されている。



村内の老人クラブ員が一堂に集り、会の一層の充実発展と福祉の向上を図ろうと、村老人クラブ連合会(湧川善雄会長、会員千五百人)では、六月十九日午後二時から役場ホールにおいて「第十回老人クラブ大会」を開催した。

大会には約四百人の会員の外、来賓も多数出席。初めに湧川会長は「今後とも地域と連携を深め、活動を広げていこう」とあいさつ。次いで、五十八年度事業・決算。五十九年度計画・予算を満場一致で承認した。また松田幸福村長、玉城千喜村議長、宮里武英北部長連会長が祝辞を述べ、会員を激励。その外事例発表として上間政春氏(今泊)と金城正吉氏(仲宗根)が活動の状況

功労者8氏に感謝状 第10回老人クラブ大会開催

- さらには今大会では、活動に功績のあった次の八氏に感謝状が贈呈された(敬称略)。
- 宮里政新 越地老人クラブ
 - 運天政一(運天)
 - 玉城源八 諸志
 - 大城源福 仲尾次
 - 諸喜田平徳(謝名)
 - 山城要八 湧川
 - 諸喜田スエ子(仲宗根婦人会)
 - 喜納苗子
- なお大会は「友愛訪問の強化」「緑と花一ぱい運動」「ボランティア活動の推進」など大会宣言を行い閉会したが、終了後は各々の余興などで賑った。写真—大会で表彰される功労者の方々

生産性の高い農業の確立を 農協の大会で方針決まる

村農業協同組合(大嶺武治組合長、組合員二、〇三四人)の「五十九年度通常総会」が、六月二十三日午後二時より役場ホールで行われた。

総会には約五百人の組合員が出席し、今後の農協経営について論議を深めた。大嶺組合長のあいさつの後、議事に入り五十八年度事業報告、五十九年度計

画、生活活動三カ年計画など、十の議案を全会で承認した。

事業報告によると、さとうきび、パインが計画を上回る好成績を納めたものの、県外出荷の野菜、花き、スイカを始め、カボチャ、インゲン等が異常気象により計画に達せず、厳しさを物語っている。しかし、信用・共済・購買・利用の各事業は目

標を達成し、今後明るい展望をみせている。財務内容では、資産総額が六二億九百万円と前年度より六・三%の伸びになっている。

また今年度の計画としては、地域の特性を活かした生産性の高い亜熱帯農業の確立と、活力ある地域の振興発展などをあげている。そのために、「第三次協同活動強化運動」「農協経営刷新強化三カ年計画」を軸に、指導・販売・信用・共済・購買利用の各事業を推進し、財務の健全化に努めることにしている。

事業推進功績者の表彰も行われた農協定期大会

婦人会 上地文子氏が会長に 大会で活動の強化を誓う



組織強化により会員の意識高揚に努めよう—など五つのスローガンを掲げ、村婦人会では五月二十六日に

中央公民館において「五十九年度定期大会」を開催した。

大会では、五十八年度事業報告・決算、五十九年度計画・予算・役員改選などを審議。また美化コンクールで優秀な成績を納めた、仲宗根と謝名婦人会を表彰した。婦人会では、今年も

写真—定期大会で選出された役員の方々

研修会や講演会、美化コンクール、不用品バザーなどを活動計画にあげており「厳しい状況であるが、組織の強化を図り、婦人・青少年・生活・福祉など各問題に取り組み、明るいふるさとづくりを推進」することとしている。

なお、今大会では役員の承認も行われ、次のとおり五十九年度の役員が決まった。

会長—上地文子(上運天)
副会長—諸喜田スエ子(仲宗根)
書記—三輪昌子(仲宗根)
会計—嘉陽ルリ子(湧川)
兼校区—玉城明美(今泊)
今校区—松川光子(謝名)
天校区—島袋富美子(上運天)
湧・古校区—照屋浩子(古宇利)

あなたは今帰仁村に住んでどのように感じていますか
国土利用計画策定のアンケートから

Uターンについて

生まれ育ったふるさととはやはりいいものです。ふるさとには広い意味ではひとつの家庭とも捉えられ、ひとはいずれは安住感を優先し定着の条件とします。農村地域は全国どこでもいえることですが、若者の大量流出がみられます。今帰仁村も同様

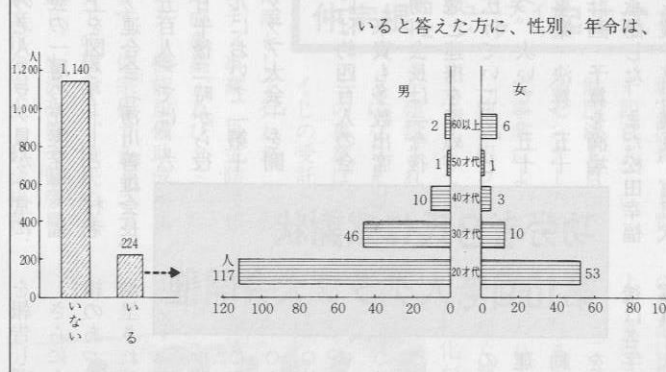
の現象があります。国勢調査と村独自の人口動態に関する調査とを突き合わせて検討してみると、十五才〜二十四才で流出（特に十五才〜十九才層が著しい）二〇才〜二十九才でUターン、そしてまた転出するというパターンが形成されています。おそらくは就学、就職のため、或いは都会を求めて転出、しばらく経

ってからその一部が戻り、仕事の都合で再び転出していついているのではないかと考えられます。今回のアンケートでも、六世代に一世帯の割合でUターン者がいると答えています。しかも二〇代が中心で、あとは三〇代に、四〇代以上は僅かです。動機については、ふるさと志向、家庭の事情によるのがほとんど

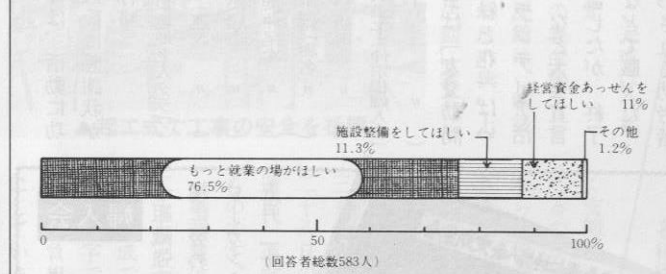
となつています。Uターン後の仕事は会社等か農業に就いているのが多く見受けられます。人口はあらゆる活動の基礎で地域の活性化の源です。本村の場合せっかくUターンして来て、もその受け入れ皿が少ないのが大きな悩みとなつています。図IIに表われているように、「就業の場が欲しい」が圧倒的です。しかしながら「そうだから」といつてむやみやたらに開発、単に企業の導入を叫ぶのもまたどうかと思います。何故なら、安住の地であるはずのふるさとが荒廃してしまつては元も子もなくな

つてしまつてからです。村の基本構想に沿った工場、企業の立地を提案実現していきたいし、村民自らの手で地域の産業を創造興していく努力も必要ではないかと思ひます。都会の者の村内定住については、歓迎するが断然多いですが、逆の意見もあり、いろいろな思惑もあるようです。

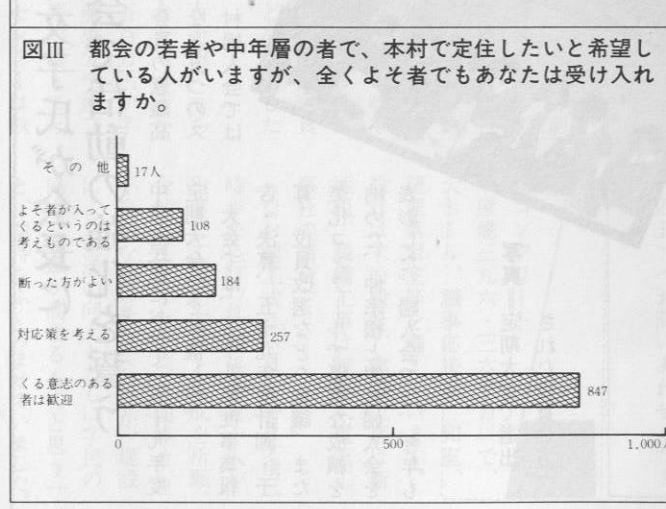
図I あなたとあなたの家族で、最近5年以内にUターンした方がいますか。



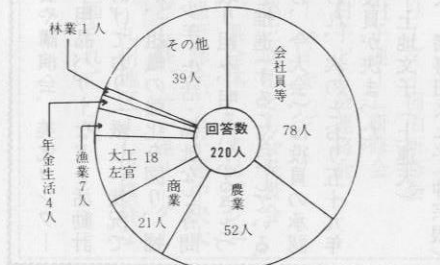
図II Uターンした方たちのために、なにか特にやってほしいことがありますか。



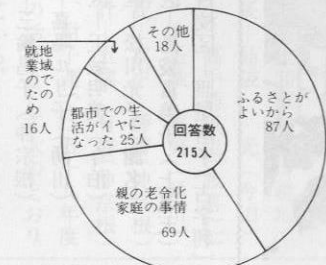
図III 都会の若者や中年層の者で、本村で定住したいと希望している人がいますが、全くよそ者でもあなたは受け入れられますか。



図IV Uターン後、従事している仕事はなんですか。



図V Uターンの動機



村まつりに 展示会の再開を

字平敷八八 大城千栄

今帰仁村まつりは今年で五回目を迎える。三回までは、婦人部の手工芸品、一般の農産物加工品等も展示されていたが、四回目はそれが中止された。まつり実行委員会でもそれに伴って検討し中止したことだろうが、次の理由を述べ、是非展示会を再開してもらおうようお願いしたい。

村では、農協婦人部の自家菜園コンクールが二回行われている外は、農協まつりも開催されていないので、それらが主体となつて展示会を開催できるまでは、村まつりに組み入れた方が効果がでると思う。

分の一である。野菜が豊富にあると、創意工夫して塩分の少ない漬物を食膳にのせることができるかもしれない。そのために、漬物上手な主婦の方々の技術を習得するチャンスではないだろうか。

①村まつりは、村民すべてが参加できる場をつくり融和と発展を図ることを目的としているので、婦人部・一般の出品によって、より多くの関心を集め伝統的まつりを発展させるのではないだろうか。

②村内市町村の婦人会活動が盛んになり、農協婦人部が主体となり菜園コンクールをしたり、生活改善グループ等により菜園盆栽展が行われたりしている。また農協まつりとして、組合員が丹精込めてつくった野菜・花き、婦人部による加工品が展示され賑わっている町村もある。本

果物も、総理府家計調査（五十六年）によると、全国一人当たり三八・五割に対し、本県は二二・四割で、全国の五七・四％である。県内自給率が低く外国や本土から輸入している関係で、全国より八％前後高いことである。できる限り村内で生産し新鮮な果物を食べるためにも、よりよい製品をみせる必要があるし、果物産地化をめざすよい機会ではないだろうか。

③村まつりは、例年八月暑い時期に開催されている。県の野菜自給率は六〇％程度で、不足分を本土から移入している。冬春秋期は出荷も増大しているが、夏秋期になると極端な野菜不足に悩まされ、高い値で購入して出荷を増している。

野菜の自給率を高め出費を抑えるためにも、夏場の野菜生産を増やし摂取量を多くすれば、健康増進につながるものと思う。夏野菜のゴーヤ、ヘチマ等は生産を増やせる絶好の野菜といえるだろう。

④県環境保健部の五十七年度県民栄養調査によると、一日一人当たり漬物摂取量は全国の二九・六割に対し、本県は六割と約五

造林・育苗で 本村が表彰

六月十六日、北中城村で県緑化推進委員会主催の「第三十五回県育樹祭」が行われた。席上、緑化コンクールの入選及び功労者の表彰があり、本村が苗畑の部、サクラ造林の部、イヌマキ造林の三部門で表彰された。



今帰仁(山北)の歴史(二) 第一監守時代(一四二二〜六九年)

山北の滅亡年代

山北王時代の最後の王となつた攀安知が、尚巴志を中心とした連合軍に滅ぼされたのは、永楽十四年(一四一六)とするのが一般的な見解である。「蔡温本中山世譜」(一七二五年)尚思紹王の条に、「本年(永楽十四)山北王攀安知為中山所滅」とあり、永楽十四年山北王攀安知は、中山に滅ぼされたとするものである。冊封使汪楫の「中山沿革志」(一六八三年)尚巴志の条に、「永楽十三年以後、山北王攀安知また遣使入貢せざれば、則ち山北王は山南王に先じて亡ぶ者十四年なり」とある。そこで、山北の滅亡を永楽十四年(一四一六)とした根拠は、攀安知王が「明実録」で永楽十三年六月を最後に、明国への進貢を絶つてゐることをあげている。「明実録」で山北の滅亡を直接記しているわけではない。汪楫の「中山沿革志」は、「明実録」を参考にしたとみられ、また琉球側の「蔡温本中山世譜」は、「中山沿革志」を参考にしたとみられる。すると、山北

の滅亡を永楽十四年(一四一六)とするのは、攀安知王の進貢が永楽十三年(一四一五)を最後にとどめているので、翌十四年には尚巴志に滅ぼされたとなししているものである。

一方、山北の滅亡は永楽二〇年(一四二二)が妥当であるとの見解が和田久徳氏によって出されている。攀安知王の明国への進貢がとどめたこと、すぐ減んだとすることに對して、山北の進貢回数が少ない特殊事情や明国と貿易を頻繁にできるだけの社会的経済的条件を考えると進貢がないことがすぐ滅亡とみるには問題があるとされる。また、一四一六年を山北滅亡とした場合、山北に監守が置かれる一四二二年までの六年間は放置されていたことになり説明し難いと述べられている。永楽十三年の明国への進貢後も山北の勢力はなお存在していたが、永楽十三年以前と同様に暫く進貢をしなかつたから、「明実録」に記載されなかつたのであり、やがて永楽二〇年三月に滅亡したと解することができるの見解である。「中山世鑑」や「蔡鐸

本中山世譜」も、山北の滅亡を永楽二〇年(一四二二)としている。

このように、山北の滅亡年代が一四一六年(永楽十四)なのか、それとも一四二二年(永楽二〇)なのか、まだ解決をみない。そのことは、「山北王時代」と「第一監守時代」の区分をどこでするかと深く関わる問題である。山北(今帰仁)の歴史上重要なふしめでもあり、今後解決されなければならない問題である。

「第一監守」の設置

山北王時代は、山北王攀安知が尚巴志に滅ぼされることで終りを告げる。一四二二年尚巴志が尚思紹王の後を継いで王位につくと、第二子の尚忠を山北監守として遣わした。第一監守時代のはじまりをいつにするかは、山北滅亡年代と関わる問題であるが、尚忠を山北の監守に遣わした一四二二年(永楽二〇)をもってはじまりとする。監守を派遣したことについて「中山世譜」(以下蔡温本をいう)尚巴

志王の条によると、永楽二〇年(一四二二)に、尚巴志の第二子の尚忠を遣わし山北の監守にする。山北城は首里から遠く離れている。城は今帰仁にあり、地は險阻に係り、人また驍健である。山北は、また險阻を恃み、変が生じる恐れがある。故に、尚忠監守を以て変乱を拒むを命ず。因つて之を称して今帰仁王子と云ふとある。「中山世譜」は、後世になって編集されたものであるが、監守を設置した当時の状況をいくらか反映しているであろう。

○山北は、首里から遠く離れている。
○地形が險阻である。
○人の性格が驍健である。
○変乱がおこる恐れがある。
○尚忠を山北の監守に任命したことは、当時の社会情勢の反映とみることができる。

古図にみる第一監守時代

一四五〇年頃の琉球を反映していると思われる資料に「海東諸国記」(申叔舟)所収の「琉球国之図」がある。「海東諸国記」は、成化七年(一四七二)の撰定で、その後成化九・十・十四年に追補されている。所収の「琉球国之図」は、成化七年以前の作成で尚金福王時代(一四五〇〜五三年在位)のもものとみられている。その地図には、

第一監守一族と百按司墓

尚忠、その子弟と続いたとみられる「第一監守時代」は、第一尚氏尚徳王が薨ると、同じ系統を継いだ山北監守も終わりを

つげる。「中山世譜」巻五尚忠王の条に、
尚徳王失徳、覆宗絶祀。由是監守貴族之徒、皆遁世而隱。即今、今帰仁間切、下運天村所謂百按司墓者、其貴族之墓也。
とある。尚徳王が、徳を失い、宗(一族)は、覆り祀を絶ち、これより、山北監守の貴族の徒は皆世を遁れて隠れた。今帰仁村運天の百按司墓は、監守の貴族の墓であるという。
百按司墓は、監守時代以前の山北王の墓であるとの口碑がある。「中山世譜」や墓内に葬られていた木籠の少し新しいものに「弘治十三年九月(一五〇〇)とあったことなどを鑑みると、山北監守の一族の墓とみただ方が妥当であろう。

「球陽」の尚忠王の条は、「中山世譜」の記事を受けついでのものであるが、「尚徳王、驍傲奢侈にして宗を覆へし祀を絶つ。是れに由りて貴族の徒世を遁れて隠る。即ち今帰仁間切下運天の所謂百按司墓は其の貴族の墓なり」とし、其の貴族が尚徳王の貴族と解される表現になっているが、「中山世譜」の記事から、山北監守の貴族と解すべきである。「中山世譜」の編者が、「墓内枯骨甚だ多し。又木籠数個有りて以て屍骨を蔵す

修飾尤も美、皆巴字金紋を銘す。而して一個、稍新しい者の壁に字が有りて云ふ、弘治十三年九月某日」とあったことから、監守の貴族は尚真王代になって老尽した証拠であるとしたのは注目される。

このように、尚徳王が薨ると第一尚氏の系統を継いできた山北監守も同時に崩壊してしまふ。百按司墓は、山北監守の一族を葬ってきた墓と位置づけることができるのではないかと

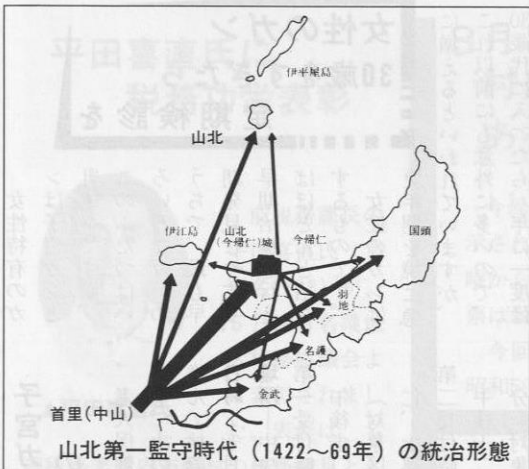
第一監守時代の統治形態

第一監守時代の統治形態が、どのようになっていたのか、また監守制がどのような機能を果たしていたのか具体的にすることはできない。ここで、その時代の統治形態のひとつのイメージを描いてみることにする。
尚巴志に滅ぼされる以前の「山北王時代」は、山北(今帰仁)城を頂点とした統治形態にあった。一四二二年(永楽二〇)尚忠をして山北の地今帰仁に監守を置いたことは、それまで今帰仁城を頂点とした小国家的統治形態から、今度は中山(首里)を頂点とした「首里→山北監守→山北の地」という図式の統治形態を描くことができる。山北の地

は、首里から遠く、地が險阻である、人は驍健で反乱をおこす恐れがあつたことが、監守を置いた理由であつた。また「琉球国之図」に表われた城(按司)が機能していた状況からすると、この時代の山北監守は、重要な役割を果たしていたとみることができる。

- ① 「那覇市史」冊封使録関係資料(読み下し編)資料篇 第一巻三、七七頁。
- ② 「冊封使録について」島尻 勝太郎前掲註①同十五頁。
- ③ 「琉球国の三山統一についての新考察」「南島」所収 一六八頁参照。
- ④ 「補遺伝説沖繩歴史」島袋 源一郎一七頁。
- ⑤ 「今帰仁村史」二九頁。
- ⑥ 「黎明期の海外交通史」東 恩納寛惇六六頁。「南島風土記」同著全集7、一二五―一六頁。
- ⑦ 「琉球国之図」がどの程度当時の社会情勢を描き出しているのか検討を必要とする。
- ⑧ 「球陽」(読み下し編)球陽研究会、一三三頁。
- ⑨ 「百按司墓」(ムムチャナバカ)広報なきじん九九号 拙稿は、「球陽」の記事を参考にしたため「尚徳王の遺族」としたが「山北監守の一族」と解すべきである。
- ⑩ 「百按司墓」拙稿前掲註⑨ 参照。

村文化財保存調査委員 仲原 弘 哲



訂正をお願いいたします。
先月号(103号)の8頁の見出し山北王を山北王時代に、(上)を(一)にそれぞれ訂正いたします。

若き後継者たち

24

自動車の修理・販売

仲宗根の嶺井高弘さん

村内に住む若い人が、人生について何を思い、村づくりにどのような夢を抱いているか——を話してもらい、意見発表と交流の場にしようというのが、こ

これまで十七年余にわたり、今帰仁自動車整備工場を営んできた厚男さん・光子さん夫妻の二男一女の長男、北山高専商業科を卒業した後、東京工科専門学校で整備技術を



今帰仁自動車整備工場
今帰仁農協共済指定整備工場

これまでに三年の整備」ということ。特に三年車検が制定され「昭和六十一年頃が整備業者にとって正念場」との答えが返ってきた。社会経済の動向が微妙に影響するとこ

ろだ。父親の厚男さんは「今後とも責任を持って頑張ってもらいたい」と期待をかけているが「技術の向上だけでは商売にならない。経営面にも目を向けてほしい」と、自分の経験上からの示唆も忘れない。

趣味は、バレー、野球、バスケットなどのスポーツや釣り。商工会青年部、字青年会の一員として、各種行事に参加したり毎週月曜日の夜はバスケット同好会の練習に余念がない。

村に若者が定着するような職場が欲しい、スポーツの楽しめが彼の意見。それにより、団結や協力を大切にしたいという。これらの素直な意見を、今

後の村づくりに活かしたいもの。話しが遅れたが、本部町謝花出身の民子夫人とは、東京の県人会で知り合った。帰郷後交際が始まり、昨年春にゴールイン

今月の末には待望の赤ちゃんが産まれる予定。男・女どちらが欲しい?の問いに「最初は女の子がいい」との答え。健康で可愛い赤ちゃんが産まれることも、今後仕事に地域活動に益々頑張るよう願いたい。

写真 | 修理の外、中古車販売も行う嶺井さん親子

子宮ガン検診状況(58年度)

字名	対象者	受診者	異常あり	
			癌の疑いのある者	その他科疾患
今兼	317	110	2	5
泊次	84	19	0	0
志	128	20	2	0
諸	113	29	0	2
与那	96	38	1	0
那嶺	97	26	1	2
仲尾	111	23	1	2
次山	94	31	1	0
崎敷	132	48	1	0
平敷	94	31	1	0
越地名	132	48	1	0
謝	359	73	0	3
仲宗	131	21	2	0
根城	99	6	1	0
玉我	305	61	0	0
山川	194	30	3	1
湧底	74	17	0	1
天勢	113	33	0	2
渡喜	115	46	0	1
仁上	109	16	0	0
運天	141	36	1	2
古宇				
利				
合	2,812	685	15	21

女性のガン 30歳をすぎたら 定期検診を

女性特有のガンは子宮ガンと乳ガンですが、このふたつはいろいろなガンのうちで、最も早期発見しやすく、早期治療を行えばほとんど治癒するものです。女性のガンは、更年期を境に急に増えるといわれていますが、これ以前にも意外に多いので、30歳代に入ったら、年に一度はガンの定期検診が必要です。昨年度の子宮ガン検診の結果(表参照)はガンの疑いが15名、その他の婦人科疾患が21名で、20人に1人は異常が認められています。また、本村の4人に3人の方は、まだ検診を受けていません。年に一度の定期検診で自分の健康を守りましょう。

子宮ガン検診のお知らせ

老人保健法による子宮ガン検診を、次のとおり実施します。進んで検診を受けましょう。
日時 | 七月十七日(火) 1時~7時
場所 | 中央公民館
第一受付時間
午後十二時~十二時四十分
(対象区 | 湧川、天底、渡喜仁、上運天、運天)
第二受付時間
午後十二時四十分~一時三十分
(対象区 | 仲宗根、玉城、呉我山、古宇利、勢理客)
対象者
三十歳以上で、昭和三十年三月三十一日以前に生まれた方
検診料 | 個人負担四百円
三十歳以下、千八百円
(当日、持参してください)
なお今泊り謝名までの字は八月一日(水)に行います。

蚊は万病の基 発生を防ぎ 快適な夏を

暑さとともに、蚊の発生が多くなりました。快適な日々を過ごすために、各家庭で蚊の発生を未然に防ぐよう心がけましょう。

蚊の生育・発生する場所
①貯水タンク等は必ずフタをしましょう。
②屋敷内の貯水池やタンクは、十日に一回は水の入替をしましょう。
③古タイヤは穴をあけて水の溜らぬようにしましょう。
④屋敷周辺の雑草の刈取り、木の下枝の伐採をし、風通しをよくしましょう。

身につけよう
事故の応急処置
事故にあった時に応急処置により事故を未然に防ごうというのが、この講習会のねらいです。講師には、本今消防の職員があたることになっており、きずの手当、止血、人工呼吸、うちみ・ねんごの応急処置について指導いたします。多くの方の参加をお待ちします。

蚊はタマゴから成虫になるまで、十日ないし十四日程かかります。蚊の発生は、自然環境より人為的な要素が多いと言われます。つまり各家庭の生活排水の水溜り、吸み取り式トイレの槽、庭池、貯水池等、フタのない貯水タンク・ポリ容器、水のたまった古タイヤ・あき瓶、屋

村社会福祉協議会では、七月十四日(土)午後二時より中央公民館において「救急法講習会」を行います。
例年今頃の季節は、児童生徒が海や山・川に行く機会が増え、悲惨な事故が相次いでいます。そこで救急法を身につけ、万

住所を有し、引き続き当村に居住している者で、昭和39年8月6日までに生まれた者。なお今回の投票は、選挙人名簿に登録されていても、今帰仁村から転出の手続きがあった者については投票できません。
第三投票所については、6月の県議選挙と同様、勢理客公民館を使用する予定。

8月5日は 村長選挙の投票日です あなたの1票を大切に

今帰仁村村長選挙が、7月31日告示され、投票は8月5日(日)の午前7時から午後6時まで行われます。開票は翌6日の午前8時30分から。
今回の村長選挙に投票できるのは、昭和59年4月30日までに今帰仁村に

琉球大学医学部附属病院の 休診・移転のお知らせ

琉球大学医学部附属病院では、かねてから西原町字上原に建設中でありました新病院がこのほど完成し、移転作業が行われる7月1日から10

月14日までの間は、休診いたしますのでご注意ください。
なお、新病院での診療は、10月15日から開始いたします。

住民税のあらまし

..... 6 最終回

住民税が算出されるまでの具体例
これまで説明してきたところにより、個人の住民税が算出されるまでの具体例は次のとおりです。

設例

家族構成 夫婦、子供2人(妻所得なし)
前年の収入 給与収入 3,824,500円
給与控除後の金額 2,609,600円

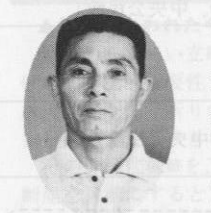
所得金額	2,609,600円.....①
社会保険料控除	229,758円
生命保険料控除	35,000円
配偶者控除	260,000円
扶養控除(26万円×2)	520,000円
基礎控除	260,000円
計	1,304,758円.....②

課税所得金額(①-②)
2,609,600 - 1,304,758 = 1,304,842円.....③

所得割額(③×税率).....	④
均等割額(4月号参照).....	⑤
住民税(④+⑤).....	

(注) 課税所得金額が200万円以下の場合は簡易税額表を適用します。

平田喜直氏に 税務功労表彰



前税務課長の平田喜直氏(字謝名1183)が、5月28日名護地区税務協議会より表彰されました。表彰は、名護税務署管内市町村の税務職員として永年勤続し、顕著な功績があったというものです。
平田氏は昭和36年から退職される58年まで村税務課に勤め、特に55年からは課長として、税務の運営向上に尽力されました。



7月1日
8月1日

村民カレンダー



7/1 日	○村球格技大会 (09:00北山高外)	17 火	○子宮ガン検診 (13:00、中央公民館)
2 月	○ちぎり絵講習会 (14:00、中央公民館)	18 水	○村公民館長体力づくりゲートホール (14:00、玉城) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)
3 火		19 木	
4 水	○ゲートホール審判員講習会 (10:00、梯梧荘) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	20 金	○定例区長会 (14:00、役場会議室) ○村公連役員会 (16:00、中央公民館)
5 木	○定例区長会 (14:00、役場会議室) ○湧小中家庭教育学級 (14:00、湧川小中学校)	21 土	○国頭郡野球大会 (22日まで国頭村外) ○昭和59年夏の交通安全県民運動 (~30日)
6 金	○昭和59年度平和祈願祭 (14:00、村慰霊塔前) ○中央婦人学級 (14:00、中央公民館)	22 日	○壮年ソフトボール大会 (9:00、村営グラウンド)
7 土	○ホッケー成年男子国体予選大会 (14:00、村営グラウンド)	23 月	○なんまち教室 (講話、14:00、中央公民館)
8 日	○村PTAバレーボール大会 (9:00、今中体育館)	24 火	
9 月	○ちぎり絵講習会 (14:00、中央公民館)	25 水	○乳児健診 (13:00~14:00、役場ホール) ○農業委員会総会 (10:00、役場会議室) ○ディケア (14:00、中央公民館)
10 火	○人権相談 (10:00中央公民館) ○今小家庭教育学級 (14:00、今婦仁小) ○子豚セリ市 (13:00、セリ市場)	26 木	○移動心配ごと相談 (13:00、上運天公民館) ○子豚セリ市 (13:00、セリ市場) ○北山老人大学 (14:00、中央公民館)
11 水	○乳児健診 (13:00~14:00、役場ホール) ○心配ごと相談 (13:00、中央公民館)	27 金	
12 木		28 土	○壮年ソフトボール大会 (準決勝、決勝、14:00、村営グラウンド)
13 金	○兼小家庭教育学級 (14:00、兼次小)	29 日	
14 土	○救急法講習会 (14:00、中央公民館)	30 月	○第7回交通安全県民大会 (14:00、宜野湾市民会館) ○ちぎり絵講習会 (14:00、中央公民館)
15 日		31 火	○今婦仁村長選挙告示
16 月	○天小家庭教育学級交流会 (9:00、伊江村三校) ○肉用牛セリ市 (12:00、セリ市場)	8/1 水	○子宮ガン検診 (13:00、中央公民館)

暑いですなえ〜。交わす挨拶もこの一言に尽きる。季節に無頓着な編集者も、女性の服装の変化に夏を感じる今日この頃。各地から、ビアガーデンオープン!の嬉しい便りも届いている。■カメラを担いだ山歩き。少々疲れるが、未知の世界を散策する楽しいひと時でもある。表紙の今泊の水源地へは、字書記の大城辰己さんに案内してもらおう。水源地といっても昔の様に直接水は見えない。それでも山で聞く水の音は心に響く何かがある。■兼次の水源地へも寄って見た。そこもコンクリートの水槽だが、樽着とした大木を従え貫録充分。「この水を飲んだら他の水は飲めない」と字の人は言う。健康にいい、という話しも聞いた。自然の中で造られた水は、世代を超えた神秘の香りと味がする。■水と云えば、これからは水難の季節。村社協ではそれに合わせ「救急法講習会」を消防の協力を得て行う。自然に逆わらないのも、事故防止のひとつだろう。



編集後記